なごや文化情報

2012
10
Oct.

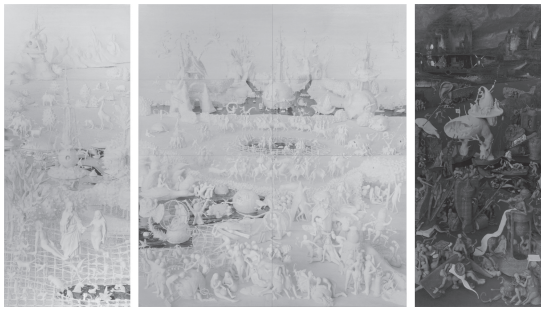
No.343

NAGOYA
Cultural
Information

公財団法人 名古屋市文化振興事業団

Contents

十月のうた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
随想　杵屋六春 長唄実演家・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
視点　大人のための「子どもの本専門店」案内
まとめ／酒井晶代・・・・・ 4
この人と…　坂本久美子さん（下）聞き手／倉知外子・・・・・ 6
ピックアップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
おしらせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9



表紙

作品
「(11-6) GARDEN OF EARTHLY DELIGHTS」
2010－12年/(中央) 220×195cm（左右各）220×92cm
パネルに印画紙、樹脂、その他、写真にエッチング

ボスの「快楽の園」を立体で再現し、それを写真におさめ、印画紙に焼き付けた後、その上にエッチングを重ねるという手法で制作したものです。現実と非現実を複雑に交差させ、絵画についての問いを深めています。

山田　純嗣（やまだ　じゅんじ）
1974年　長野県飯田市生まれ
1999年　愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了
2006年　「VOCA2006」上野の森美術館
2009年　個展　中京大学アートギャラリー
C・スクエア（名古屋）
2010年　平成21年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞
2012年　「ポジション2012」名古屋市美術館

十月のうた

風

杉本（すぎもと） 容子（ようこ）

風吹けば風に応へてほろほろと
実を落としけり全手葉椎（まてばしい）の木

紅白に咲き盛りゐる萩の花
けさの雀は白に集まる

寂しさを好みし少女はそのままに
大きくなつて落葉をひろふ

「千樹の森」と、ひそかに名づけて誼を結んでいる公園がある。わが家から徒歩三分、都市緑化植物園を備えた広大な公園である。整備から三十年余を経て大樹となった木々は、それぞれの風情を持ち、それぞれの存在感を示している。大樹、一樹と呼ばれながらも一様ではない。その多様さが楽しい。
もう一つ、この森に楽しみがある。子どものころ、何かあるとすぐ森の中に潜り込んでしまった「寂しがりや」に吹いたやさしい風に遇えることである。
（中部短歌）

随想

「ナゴヤコドモアートビレッジ」
～長唄三味線の楽しさを伝えたい～

杵屋（きねや） 六春（ろくはる）（長唄実演家 名古屋音楽大学講師）

8月28日残暑厳しい午後、日本特殊陶業市民会館第2リハーサル室にて小学3年生から中学3年生までの25人が参集して「唄って弾いて楽しもう！三味線体験」と題し、「ナゴヤコドモアートビレッジ」のワークショップを開催しました。

はじめに長唄がどんなものかを知っていただくべく「連獅子」を5分に抜粋して演奏。この曲は30分位の曲なんですよ、などの説明後、三味線体験がスタート。小学3年生が半数をしめる今回。まずは三味線をかまえることからスタート。三味線の重さとバランスに四苦八苦する子どもたち。次は撥の持ち方。手の大きさや握力と持ち方が上手くかみ合わず「重たいよぉ」「小指が痛いよぉ」とまた悲鳴…いつになったら曲にたどりつくのやら。与えられた時間は1時間30分。どうやって子どもたちに三味線の楽しさを伝えられるのかと模索しながらの進行。25人の三味線の音にかき消される私の声。かなりピンチ。そんな中、譜面の簡単な読み方やスクイ・ハジキなどの基本的な技法を教えながら進めていく。教室のそこかしこで「出来ないよぉ」「疲れたよぉ」の声。大丈夫かしら…私の焦りや心配をよそに時間中盤にはスラスラと譜面を読んで演奏していく子どもたち。イケるかも。後半には初歩の曲に入り、高学年の皆さんに替手(二重奏の難しいパート)を教え、いよいよ全員での合奏タイム。長い時間の体験の中で集中力を切らした子どもたちも、合奏時間には抜群の集中力を発揮。驚くほど正確に、そして楽しそうに演奏する子どもたち。親御さんたちの写真撮影にも思わず熱が入る微笑ましい光景となりました。体験が終わった後も興奮冷めやらぬ様子で楽器や私から離れない子どもたち。体験後「楽しかった～！」と帰っていった子どもたちの笑顔が最高のご褒美。今回の「コドモアートビレッジ」での体験は、私が子どもたちから色々なことを教わった貴重な時間となりました。

そして芸術の秋を迎え、11月9日、古川美術館でグラフィックデザイナー高北幸矢先生の版画(シルクスクリーン)の作品と長唄を融合させたサウンドインスタレーションコンサート、11月17日には長唄を分かり易く身近に感じていただこうと始めた母との共催の演奏会「長唄おやこ会」が今年19回目を迎え開催します。11月には舞台演奏を通じて長唄を知っていただく機会が目白押し。さて今度は観客の皆様の笑顔を楽しみに稽古・精進の毎日です。

Report 視点

大人のための「子どもの本専門店」案内

まもなく読書の秋。この機会に絵本や童話といった「子どもの本」を読んでみませんか? 児童書は図書館や一般書店でも手に取ることができますが、じつは名古屋市内には何軒もの子どもの本の専門店があります。オーナーやスタッフはもちろん児童書に詳しい方ばかり。何気ないやりとりを通してお気に入りの一冊が見つかるかも知れません。それぞれに個性的な店を訪問して、お話を聞いてきました。　（まとめ:酒井晶代）

◇専門店の草分け・メルヘンハウス

千種駅から徒歩数分の場所にある「子どもの本専門店メルヘンハウス」は、来年で創業から40年を迎える児童書専門店の草分け的な存在。およそ30,000冊もの絵本と童話が揃う店内には日本の絵本、海外の翻訳絵本、年齢別の童話などがコーナー別にならんでおり、お目当ての本を容易に探すことができる。ところどころに木製の机や椅子も置いてあって、手に取った本を自由に広げて読むことも可能だ。取材で来店した折にも、親子で、あるいは祖父母を含む三世代で、絵本や童話を囲んで楽しむ姿があちこちで見られた。

スタッフの方にお話を伺ってみると、まさにこうした「手に取って読む」場所づくりが開店のきっかけの一つであり、店づくりの上で一貫して大切にしてきた点でもあるという。特定の作家に限定することなく幅広く絵本や童話を置くようにしているのも、実物をさまざまに手に取るなかで思いがけない出会いや再会があってほしいという願いのひとつの形なのだろう。接客を通して一緒に本を選んでいくことも大事にしているそうで、贈り物の相談が多いというのもうなずける。

「大人の読者にオススメの児童書は?」との問いに、取材に応じてくださったスタッフの方が挙げられたのは『わたしのワンピース』（にしまきかやこ こぐま社）。1969年の初版以来ずっと読み継がれているロングセラー絵本のひとつで、ご自身も子ども時代に愛読されたとのこと。懐かしい本との再会を通して、子どものころの気持ちを取り戻してもらえたら、との思いを込めて選んでくださった一冊だ。

◇書斎のような空間・トムの庭

今度は東山線の覚王山駅を南へ。田代本通沿いの洒落たビルの二階に、「Book Gallery トムの庭」がある。1995年のオープン以来いくつかの場所で店を構え、現地には2009年に移ってきたとのこと。店内に入って最初に目に飛び込んでくるのは、壁面を覆う天井まで届きそうな木製の本棚。ここには色とりどりの絵本が表紙が見えるようにディスプレイされており、まるでギャラリーのようだ。フロアに目を転じると、書棚に収まっている本ももちろんあるが、テーブルや棚の上に無造作に積み重ねられた本もあり、新刊も古書（海外の絵本から吉本隆明や加藤周一の思想書まで！）もそれぞれが居心地の良い場所でリラックスしている。大きな椅子に腰掛けてそうした本を眺めていると、お店に来ているというより、長い時をたたえた書斎を訪問しているような錯覚に陥る。オーナーの月岡弘実さんによると、良書が絶版になっていくのを見ていられず、5～6年前から新刊とあわせて古書も扱うようになったという。このエピソードからうかがえるように、店内は「自分が好きな本を置く」という方針で貫かれている。デパート型ではなくセレクトショップ型の児童書専門店である。

「児童文学はときには大人の本以上に現実に迫ることができるもの。児童文学を読むことで大人の身体の中にあるファンタジー性を信頼できるようになると思う」と語る月岡さんが薦めてくださったのは『にぐるま ひいて』（ドナルド・ホール：文、バーバラ・クーニー：絵 ほるぷ出版）。19世紀初頭のニューイングランドを舞台とするこの絵本のなかでは、大人も子どもも共に働き、衣服や食べ物や生活用品をつくる。秋になると父親はそれらの品物を荷車に積ん

で、港町の市場まで売りにいく。波乱万丈の物語はどこにもない。日々の暮らしの奥行きを描いた静謐で重みのある作品だ。

◇「あったらいいな」を形に・クラッベ

次にお邪魔したのは市バス高針原の停留所からほど近い、「木のおもちゃと絵本のおみせ クラッベ」。店名のとおり2000年の開店以来、選りすぐりの絵本とおもちゃを置いている。三人のお子さんの母親でもあるオーナーの倉地ひろみさんが、ご自身の子育てのなかで「親子でゆっくり過ごせて、おもちゃや絵本が揃う店があったらいいな」との思いを抱き、実現させた場所だ。第一子を出産されて間もなくのオープンだったそうだが、そのお子さんも現在は中学生。歴代のアルバイトのなかにはその後、結婚、子育てと親として奮闘中の方もいて、近況を知らせてくれるのがとても嬉しいと話してくださった。

店内は入り口寄りにおもちゃのコーナーがあり、奥が絵本や童話の書棚になっている。子どもがいる家庭にはどちらも必要という思いから、おもちゃと本の割合はほぼ半々で、これはオープンから一貫している。おもちゃも本も、実際に触れて(読んで)、遊んでみないと選べないもの。しかし近年ではインターネットの普及にともない、情報偏重の選び方、買い方も見聞きする。「あふれかえらんばかりの情報のなかで、おもちゃや本との出会いの場が、逆に狭まってしまっているような気がします」という倉地さんの言葉に深くうなずく。もちろんクラッベにはプレーコーナーがあり、実際に遊びながらお気に入りを探すことができる。

「作品を読むと、風の音が聞こえてきます。自分のなかに子どもがいることに気づかせてくれる作家です」と倉地さんが推薦してくだったのは、神沢利子さん。幼年文学『ちびっこカムのぼうけん』(1961年)で本格的にデビューし、半世紀ものあいだ詩歌から絵本、長編児童文学まで数多くの作品を発表してきた現代児童文学を代表する書き手の一人である。

◇地域に根ざして・夢文庫 ピコット

最後は鶴舞線原駅のすぐ近くにある「夢文庫 ピコット」へ。オーナーの熊崎かつ子さんは元保育士。保育の仕事のなかで子どもが本と出会うことのかけがえのなさを痛感、もともと本を読んだり文章を書いたりすることが好きで、退職して現在の店を構えたのは1981年のこと。当時はまだ周辺にキャベツ畑や原っぱが残る一方、転勤で市外から転居してくる家族も多く、「土地勘も人脈もない状態でのスタートでしたが、母親たちをはじめ地域の方々の力に支えられてここまでくることができました」と話してくださった。ブログなどを見ても、本の販売にとどまらず、子育てに関するさまざまな橋渡しやコミュニケーションの場として機能している様子が伝わってくる。

オープン時の商品構成は子どもの本と保育書の二本柱だったが、お店にやってくる子どもたちの成長とともに現在ではおもちゃが加わるなど、30年のあいだに少しずつラインナップは変化してきた。保育士の経歴から現場とのつながりを大事にしており、子どもたちが実際にどんなふうに読んだり遊んだりするのか、具体的な様子をフィードバックしてもらえるのも強みだ。それでも基本線は変わらず、奇をてらうことなく子どもが今日読みたい本をちゃんと選べるような品揃えを心がけているとのこと。「子どもたちの興味を広げるお手伝いをしたいと思っています」と熊崎さん。「迷ったときは、子どもに聞くのがいちばん。子どもと一緒に読むことで、絵本や童話の魅力がわかります」。

親子づれだけでなく、自分のために、あるいは贈り物にと、中高年のお客さまも多いというピコットさん。たくさんご紹介くださったなかでオススメとして真っ先に挙げられたのがフィンランドの絵本『ふしぎなボタン』(ミルヤ・オルヴォラ:文、サッラ・サヴォライネン:絵 猫の言葉社)。一つの美しいボタンが身分の違いや時間の隔たりをこえて人と人とをつないでいく物語は、読む人ごとに様々な表情を見せるだろう。何よりボタンの絵が美しい一冊でもある。

店内の雰囲気はそれぞれに異なるが、どの取材先でも大好きな本を、その本を必要とする人に手渡すことの楽しさや喜びがぐんぐん伝わってきた。子どもから大人まで幅広い世代が愉しみを分かち合うことができるのが児童書の魅力。大人もぜひ、子どもの本を。

インフォメーション

・子どもの本専門店 メルヘンハウス
千種区今池2-3-14　TEL052-733-6481　http://www.meruhenhouse.co.jp/
・Book Galleryトムの庭
千種区田代本通5-3 nuビル2F　TEL052-734-8268　http://tomnoniwa.petit.cc/
・木のおもちゃと絵本のおみせ クラッベ
天白区焼山1-406 プリミエール焼山1F　TEL052-800-6115　http://www.minnano-krabbe.com/
・夢文庫 ピコット
天白区原1-1616　TEL052-803-1020　http://www.pikot.com/
※今回取材させていただいた上記4店のほか、緑区、守山区などにも「子どもの本専門店」がある。

この人と…

三代真史ジャズ舞踊団芸術監督

坂本 久美子さん 下

ピンチをチャンスに変えて輝く

ジャズダンスをショーの世界から芸術の世界へと導いてこられた坂本さんの足跡を前号で伺った。名古屋市芸術祭賞（1993年）、名古屋市民芸術祭主催公演（1996年、2003年）、文化庁芸術祭参加公演（2002年、2006年）、昨年度の名古屋市芸術奨励賞受賞と芸術性を評価された実績が並ぶ。三代真史ジャズ舞踊団の海外公演では絶賛のかげに思わぬハプニング! 私は窮地が好きときっぱり答えられる坂本さんの開拓精神はお見事!!

（聞き手：倉知外子）

JAZZ DANCE WORLD CONGRESSから世界ツアーへ

ワールドコングレスでは第1回から8回、振付コンクール奨励賞を受賞している。1997年 第6回ワールドコングレスはドイツで開催され、この時にドイツの大手エージェンシーから誘いを受け、ヨーロッパツアーの実現となる。2000年に7カ国・7週間・35公演を行い大好評となる。翌年に5カ国・7週間・33公演と連続。その国々は、1回目はドイツ・フランス・スイス・オーストリア・オランダ・ベルギー・ルクセンブルグ、2回目はドイツ・スイス・オーストリア・オランダにイタリアが加わった。どの公演もスタンディングオベーションで大好評。好評は更に広がり2003年イタリアツアーで12都市・3週間・14公演、再びヨーロッパツアーでは2004年（5カ国・5週間・25公演）、2007年（4カ国・4週間・18公演）とドイツ・スイス・オランダ・ルクセンブルグ・ベルギー・ハンガリーと主要国を網羅した。他にフィリピンとロシアでも公演をした。もちろん日本でもツアー公演をし、東京、大阪、福井、名古屋などを回っている。坂本さんはその当時の団員が日本での公演と並行しながら本当によく頑張ってくれたと語った。坂本さんは今までに、シカゴ・韓国・ニューヨーク・ワシントン・ハワイ・グアム・フェニックス・バッファロー・コスタリカ・メキシコ・ルーマニアと、今年はピッツバーグに出かけた。まさに世界を駆け巡りジャンプする坂本さんと舞踊団だ。

Arena del Sole - Nueva Scena - Teatro
イタリア・ボローニャにて 5日間公演（2001年）

イタリアツアーバス（2003年）

海外公演での好評とハプニング!

海外公演は好評で、欧州新聞、ロシア新聞、世界8百万部発行のダンスマガジン誌で大きく取り上げられた。いかに好評だったか欧州新聞の抜粋で紹介しよう。

「素晴らしく鍛練されたダンサー達による公演は、この

ダンスマガジン誌（NY）に紹介される（2001年）

「大地への祈り」から始まった。振付の坂本久美子と三代真史が舞台に供したのは日本の文化だけではない。彼らはモダンダンス、ジャズダンス、そしてクラシックバレエの要素を調和よく融合することに成功した。また、彼らの振付にはブレイクダンスの要素まで組み込まれている。（略）この並はずれたダンスを見るという体験はまさに珍重すべきものであったと言える。」「1時間半の公演はセンセーショナルな上に、現代音楽と民俗的な響きが興を添えた。（略）際立った創造性と心を伝える意思を持っている。（略）坂本久美子と三代真史は舞台装置を省いて、本来的なダンス表現の要素のみに限定し、伝統的な手法を用いて全く新しいダンスの世界を創造したのである。」「観客は息をのむような演技を熱狂的な喝采で讃えた。彼らはその身体表現の力強さと並み外れたアクロバットにすっかり魅了された。ダンサー達が舞台に供したのは、ジャズダンスという言葉では収まらない。それはユーモアと詩情に満ちた物語と言うべきものである。」（2000年）

「ゆれる、浮き上がる、宙に舞う。ハーモニーと生命の歓喜が会場を揺るがせる。それはなおも終演で暗くなった舞台の上に吹き、浮遊し、渦まいている。ダンサー達はその驚異的な力の限りをつくした舞台を再び披露してくれた。（略）その秀逸さで数々の賞と栄誉を受け、そのことがダンサー達に確かな信念を与えた。坂本久美子と三代真史の2人は日本の心と伝統に満たされ、特徴付けられた振りを創り出し、尽きることのない可能性をもってダンスの歴史に新たな表現・造形・解釈を加え続けている。」「最高級のスペクタルであると同時に細やかな詩情、心を動かすメランコリーを秘めた作品の数々である。これらを鑑賞しているうちに珍しく時間がたつのが速いと感じている自分に気づいて驚いてしまった。」（2001年）

舞台ばかりではなく、坂本さんの人柄も取り上げられている。ロシア新聞の記者が公演前の練習を見学して「坂本久美子さんは大きい声を出すこともなく、優しい口調の日本語で見守るように指導していた」（2007年）

まだまだ記載したい批評は沢山あるが、腰が抜けるほどのハプニングも起きた。「ツアーは生もので色々とあった」と語る坂本さん。アメリカ公演で、リハーサル中に三代さんが、リフトの時に落下して救急車で病院へ。脳震盪をおこし、肩も脱臼していたが、すぐに治療し、翌日舞台に出演した。また別の公演では、本番中に三代さんが他のダンサーとぶつかり鼻を骨折。舞台袖が血で染まるほど出血した。しかし、新聞では「主役は怪我をしたがアンサンブルが素晴らしい」と掲載され、観客が長蛇の列となり、公演は大成功に終わった。

Theater plein 劇場
ベルギー・アントワープにて
4日間公演
街角のポスター（2004年）

海外の舞踊環境と名古屋の未来へ

坂本さんは「世界大会におけるジャズダンスはコンテンポラリー、モダンダンスの境がなく格調高いテーマ（メッセージ）がある。各舞踊家に品格があり知的である。アメリカのダンス界では子ども達は発達段階でバレエ、モダンダンスの基礎をきっちりやり、なおかつジャズダンスのビートリズムを習熟する。世界共通の軸がある。名古屋のジャズダンス界はまだまだ、これからだと思う。若い人達が精神性、すなわち端正できめ細かな几帳面と謙虚な表現をしていくことで日本人ならではできる身体表現となり得る。グローバルに評価され活動できる道筋を残したい」と語る。

NYタイムズ紙に紹介された「ジャパニーズビジネスマン」（2004年）

チャレンジはエンドレス

2008年以後の世界ツアーは不況と政情不安によりキャンセルが相次いだ。どんな困難にあっても逃げない勇気と夢をもつように団員に言い続けてきた坂本さん自身が次の目標に走り続ける。国際振付家の称号を持ち世界でも活動しながら健康体操関係のボランティア、執筆活動などをこなす多才な女性である。そんな坂本さんに家庭と両立の秘訣を伺うと「人生は演ずること、場面、場面で速やかに切り替えていくスイッチを大切にしてきました。また夫婦円満であることも大切です」と。私は、なんだか豊かな気持ちになってインタビューを終えた。（了）

ピックアップ

「三曲の伝統と継承」

来る10月13日（土）に、名古屋市青少年文化センター・アートピアホール（ナディアパーク11階）でコンサート「郷土が生んだ名作曲家 吉澤検校 雅の世界～現代に響く古典の調べ～」が行われる。

吉澤検校は名古屋を中心として活躍し、「秋風の曲」の作曲で箏の独奏の可能性を拓いた京都の光崎検校（～1853年）の影響を受けて、箏曲作品を多く残した。本コンサートは、名古屋市文化振興事業団の主催で開催される。吉澤検校の曲の次世代への創造的な継承と市民への箏曲・三曲の普及を目的として、彼の遺した代表曲「千鳥の曲」「春の曲」「山桜」「花の縁」「捨扇」と、菊重精峰氏による本公演のための委嘱作「千鳥幻想」を取り上げ、名古屋三曲連盟に所属するベテランから若手までのプロの演奏家が合奏するものである。

「千鳥の曲」は、吉澤検校が勾当（検校の下の職位）の時代に胡弓の曲として作曲したものを、のちに箏曲の手事物形式に編曲したとされる曲であり、千鳥の手事には替手が付けられて箏同士の合奏が楽しめる。この曲と「春の曲」は吉澤検校の曲のなかで「古今組」と呼ばれるものであり、箏の調子（チューニング）に「古今調子」という、吉澤検校が雅楽からヒントを得て考案した調子が用いられているのが特徴である。「山桜」は古今調子の変形が使われている「新古今組」のひとつで雅楽とも合奏できる。「花の縁」は、松坂屋の当主であった伊藤祐良が婚礼のために作詞し、吉澤検校が三曲合奏にしたものである。当時の尾張名古屋の商家には詩歌音曲への深い嗜みがあり、検校や文人たちとの交流があった。「捨扇」は、吉澤検校が名古屋を離れ京都へ上る際、その覚悟を自ら作詞に込めて作ったと伝えられている。また「千鳥幻想」は、箏曲作品の「千鳥の曲」を、箏・低音楽器の十七絃・古来の三曲合奏のパートナーである三絃・尺八を加えた大合奏へ、今回の会のために菊重精峰氏に新しく編曲していただいた。今回の終曲を飾る曲である。三曲合奏の新しい可能性を感じていただきたい。（I）

「雅の世界」チラシ

三曲の図
（左から胡弓、箏、三絃）

吉澤検校碑

おしらせ

名古屋市文化振興事業団 事業案内・チケットガイドでは各種の事業案内、チケット販売をいたしております。
平日 9：00〜17：00 ／チケット郵送可　　TEL 052-249-9387 ／ FAX 052-249-9386

Information

名古屋市文化振興事業団・登録アーティスト制度『名古屋AGC』

登録アーティスト制度「名古屋AGC（Artist Guide of Cultural promotion agency）」とは、芸術文化を創造するアーティストの情報を収集し、名古屋市文化振興事業団のホームページ上で公開することで、アーティストの活動の場を拡充するものです。

《アーティストの登録申込み》

主に名古屋市域を活動の場としている実演家の方の登録を随時受け付けています。プロ・アマチュアは問いません。
登録数：262件（平成24年8月現在）

■登録アーティストの紹介料及び登録料は無料です。
■登録アーティストの閲覧・利用申込み・登録申込み方法については、名古屋AGCホームページをご覧ください。
名古屋AGCホームページ　http://agc.bunka758.or.jp/

問い合わせ　名古屋市文化振興事業団　事業案内
TEL052−249−9387　E-mail　agc@bunka758.or.jp

Information

芸術文化活動アドバイザー

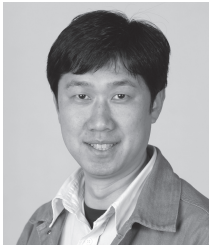
「画家・プロの演奏家・作家・俳優になりたい!」「専門の大学へ進学・留学したい…」「創作活動でわからないことがある…」といった芸術活動の悩みや疑問に、各方面で活躍中のスペシャリストが無料で相談に応じます。実技指導もいたします。

日　時　土曜日・日曜日　13:30〜17:00　※予約不要、相談日（10月〜11月まで）は下記を参照
場　所　ナディアパーク7階　アドバイザーカウンター（ナディアパーク文化情報ひろば）

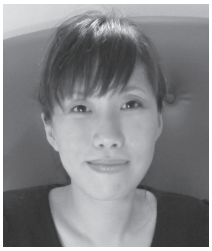
［声楽］やまもと かよ
（ソプラノ）
■10月14日（日）・28日（日）
■11月11日（日）・25日（日）

［器楽］中山智子
（チェロ奏者）
■10月21日（日）
■11月 4日（日）・18日（日）

［文学］菅原朋子
（児童文学作家）
■10月 7日（日）・20日（土）
■11月10日（土）



［演劇］岡田一彦
（役者）
■10月27日（土）
■11月17日（土）・24日（土）



［美術］石倉悦加
（美術作家）
■10月 6日（土）・13日（土）
■11月 3日（土）

メールで質問！
★忙しくてナディアパークに行けない! という方は、メールで質問をお寄せください。　sodan@bunka758.or.jp
講師スケジュールなど、詳しくは、名古屋市文化振興事業団ホームページをご覧ください。http://www.bunka758.or.jp
★芸術創造センターでも、芸術文化についての相談・質問等にメールにて回答する窓口を設置しております。
詳しくは、芸術創造センターホームページ（http://www2.bunka758.or.jp/scd02_top.html）をご覧ください。
【［演劇］麻創けい子（劇作家）、［音楽］鏑木勇樹（声楽家）、［舞踊］徳山博士（振付家）、［伝統芸能］杵屋三太郎（長唄家元）、［舞台技術］大蔵聡子（舞台監督）】

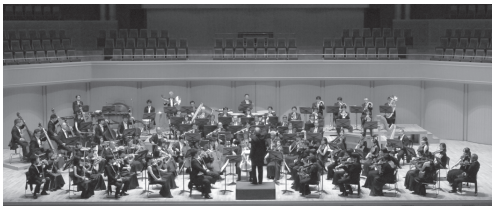
問い合わせ　名古屋市文化振興事業団　事業案内　TEL052-249-9387

Information

水の環（わ）コンサート

名古屋市上下水道100周年事業として開催する特別コンサートのチケットを名古屋市文化振興事業団各施設（東山荘を除く）で販売しています。『美しく青きドナウ』『水上の音楽』など、水にちなんだ名曲を織り交ぜたプログラムを、東海地方を代表する管弦楽団“名フィル”の演奏にてお贈りします。なお、チケット収益の一部は木曽三川流域の水環境を守るために活用します。この機会に音楽に親しみながら気軽に水環境保全に貢献しませんか?

日　時　11月4日（日）15:00
会　場　日本特殊陶業市民会館フォレストホール
出　演　指　揮／川瀬賢太郎　トランペット／井上 圭
管弦楽／名古屋フィルハーモニー交響楽団
料　金　<全指定席>1,000円　※未就学児入場不可
問い合わせ　名古屋市文化振興事業団チケットガイド　TEL052-249-9387
主　催　名古屋市上下水道局



名古屋フィルハーモニー交響楽団

Information

名古屋いけばな芸術展2012

名古屋市民芸術祭主催事業として名古屋いけばな芸術展 2012 を開催します。
この地域のいけばな作家が、流派を越えて季節の花を発表する、大規模ないけばな展です。

日　　時　<前期>10月30日(火)～11月 1日(木)
<後期>11月 2日(金)～11月 4日(日)
10：00～19：00 <1日(木)、4日(日)は17:00まで>

会　　場　市民ギャラリー栄8階　第6～11展示室

参加流派　池坊、石田流、小原流、嵯峨御流、真生流、草月流、
日本生花司松月堂古流、オール愛知華道連盟、
名古屋華道文化連盟、名古屋市各区いけばな団体連合会

出品点数　約250点

制　　作　名古屋いけばな芸術展実行委員会

料　　金　400円(当日 500円)

問い合わせ　TEL 052−411−3036（名古屋いけばな芸術展実行委員会）

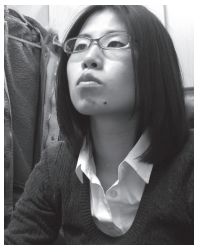
Information

『ショートストーリーなごや』第5回受賞作品映像化　監督決定

名古屋を舞台にした短編小説コンテスト『ショートストーリーなごや』第５回受賞作品を原作に映像作品を撮影する監督を公募し、全国からの応募者19人の中から、次のとおり決定しました。

松尾健太 監督

真田幹也 監督


谷口未央 監督

大賞『過去を描いた伊藤さんの話』監督／松尾 健太
原作／野々村 務
舞台／栄

佳作『キスナナ the Final』監督／真田 幹也
原作／きしのみよし
舞台／名駅内マーメイドカフェ、名鉄メンズ館前、ナナちゃん人形周辺

佳作『矢田川のバッハ』監督／谷口 未央
原作／伊藤由美子
舞台／東区の宮前橋近くの矢田川岸辺

受賞作は、区役所・図書館などで配布中の作品集でお読みいただけます。

ホームページ　http://www.s-story.org/
問い合わせ　名古屋市文化振興事業団　事業案内　TEL052−249−9387

舞台VTR映像専科
ステージの感動を格調高い映像で追求します。

ビデオソフトの企画・制作
有限会社 エーワン.ビデオ.システム
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100

TOKAI VIDEO SYSTEM
ハードシステム部門
AV機器販売部門（家庭用）
映像企画・制作部門
放送関連部門
機器設備レンタル部門
映像メディアの未来を創る
生きた情報を発信
TVS 株式会社 東海ビデオシステム
名古屋市中区上前津二丁目14-15　TEL.<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)

innovason Ether LACOUSTICS ES Sound lake whirlwind
■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守
A&V Professional Use 株式会社エーアンドブイ
〒464−0846
名古屋市千種区城木町二丁目98
TEL052（761）5400
FAX052（761）0909

名古屋市民芸術祭2012　参加公演（11月）

名古屋市民芸術祭は今回で23回目を迎えました。今年は10～1月に音楽・演劇・舞踊・伝統芸能・文学・生活芸術・美術の幅広いジャンルにおいて、主催事業・参加公演が繰り広げられます。今月号では11月の参加公演についてご案内します。

参加公演 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能の四部門から参加を募り、特に優秀な公演に対し市民芸術祭賞を、もしくは特に表彰に価する公演に対し市民芸術祭特別賞を贈ります。10・11月の2ヶ月間に19公演が参加します。

音　楽

SKOLIONコンサート　5th
11月11日（日）14:00
三井住友海上しらかわホール
一般2,000円（当日2,500円）
高校生以下1,000円（当日1500円）
TEL 052－910－6700（ミューズクリエイト）

山口雅子ソプラノリサイタル
11月13日（火）18:30
電気文化会館ザ・コンサートホール
一般4,000円
TEL 052－752－2505（名古屋二期会）

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」
11月16日（金）18:30
中川文化小劇場
一般3,500円
TEL 090-1788-8586（名古屋オペラ協会：近藤）

第25回フルートアンサンブル葦笛の会定期演奏会
11月24日（土）13:45
三井住友海上しらかわホール
一般2,000円（当日2,500円）
TEL 0561－61－2595（渡辺聖司）

演　劇

名古屋シアター・アーツ公演
「たとえば野に咲く花のように」
11月16日（金）19:00
11月17日（土）14:00、19:00
11月18日（日）14:00
千種文化小劇場
一般2,500円（当日2,800円）
中高生1,500円（当日1,800円）
TEL 052－933－1751（名古屋シアター・アーツ）

KOP　第19回公演
「スーパー・ファイナルファンタジー・デラックス」
11月17日（土）15:00、19:00、11月18日（日）11:00、15:00
G／PIT
一般2,000円（当日2,300円）
学生500円（当日500円）
TEL 090－1101－3626（奥村）

オルガンおじさんとねこ
11月24日（土）11:00、11月25日（日）11:00
うりんこ劇場
一般2,300円、子ども（小学生以下）1,500円、おやこ3,500円
TEL 052－772－1882（うりんこ劇場）

※９月号に掲載した人形劇「風が吹くとき」は出演者の急病のため参加を辞退されました。

舞　踊

スタジオ M　第22回公演「LOVE」
11月3日（土）18:30、11月4日（日）15:00
芸術創造センター
一般3,000円（当日3,500円）
TEL 052－735－3151（マネージメント・プロ）

越智インターナショナルバレエ「眠れる森の美女」
プロローグ付全３幕
11月10日（土）18:00、11月11日（日）14:00
愛知県芸術劇場大ホール
S席10,000円、A席8,000円、B席6,000円、C席4,000円
TEL 052－481－4488（越智インターナショナルバレエ）

伝統芸能

岡崎美奈江　箏・三絃リサイタルⅡ　未来へ～古典の輝き～
11月17日（土）18:00
電気文化会館ザ・コンサートホール
一般3,000円
TEL 090－1744－6061（岡崎美奈江）

第56期　第4回名古屋宝生会定式能
11月18日（日）13:00
名古屋能楽堂
一般5,000円、会員4,500円、学生2,000円
TEL 052－882－5600（名古屋宝生会）

問い合わせ　名古屋市民芸術祭実行委員会事務局　TEL 052－249－9387　FAX 052－249－9386

あなたの芸術文化ライフを総合的にサポートします！
公益財団法人名古屋市文化振興事業団
「友の会」会員大募集！

エンジョイコース（年会費 3,000 円）
・事業団主催公演チケットの割引販売！
・事業団主催公演指定席チケットの先行販売！
・「友の会だより」「なごや文化情報」を毎月お届け！など

クリエイティブコース（年会費 15,000 円）
・会員主催の公演チラシを事業団管理運営施設へ配送！
・会員主催の公演チラシを友の会会員へ配布！
・会員主催の公演で事業団の後援名義が使用できる！など

名古屋市文化振興事業団　事業案内
TEL 052－249－9387

名古屋市文化振興事業団
事業案内・チケットガイド

名古屋市中区栄三丁目18番１号 ナディアパーク８F
TEL 052-249-9387／平日9:00～17:00※郵送対応可

○事業団主催事業のお問い合わせ

○チケット販売
- 事業団チケット販売システムでのチケットの販売（「チケットぴあ」の取り扱いはありません。）
  ※チケット販売システムで販売のチケットは名古屋市文化振興事業団が管理運営する文化施設窓口でもお求めいただけます。（東山荘を除く）
- 事業団友の会クリエイティブコース会員様のお預かりチケットの販売。

○文化芸術相談窓口

○チラシの受付

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人（椙山女学園大学文化情報学部教授）
小沢優子（名古屋音楽大学講師）
倉知外子（オクダ モダンダンス クラスター副代表）
酒井晶代（愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授）
田中由紀子（美術批評／ライター）
はせひろいち（劇作家・演出家）

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報は、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

Information

名古屋能楽堂12月定例公演

◆能・狂言と文学　―時代を越える“ことば”と“こころ”―

室町時代前期に大成した能・狂言は、それ以前に成立した古典文学から題材を得て作られました。そして、能・狂言もまた、後代の文学に影響を及ぼしています。今年度の定例公演では、近現代の小説や戯曲の題材となった能・狂言の作品を主に取り上げ、時代を越えて受け継がれてきた日本文学の魅力をお伝えします。12月公演は、山崎正和「世阿弥」、杉本苑子「華の碑文ー世阿弥元清」など現代文学に大きな影響を与えた世阿弥。その世阿弥の作品から能「忠度」を、劇作家、郡 虎彦によって戯曲化された能「鉄輪」、そして狂言は「鈍太郎」をお贈りします。

能『忠度（ただのり）』（宝生流）／シテ　玉井博祐
能『鉄輪（かなわ）』（観世流）／シテ　八神孝充
狂言『鈍太郎（どんだろう）』（和泉流）／シテ　井上靖浩
舞囃子『松風（まつかぜ）』（金春流）／シテ　鬼頭尚久

日　時　12月2日（日）12：30　　会　場　名古屋能楽堂

料　金　〈指定席〉4,000円　〈自由席〉一般3,000円　学生2,000円
※友の会会員は1割引
※当日券は自由席のみ500円増となります
※10月2日（火）発売

問い合わせ　名古屋能楽堂　TEL 052-231-0088　FAX 052-231-8756

能「忠度」

Information

LIVE UNDER THE TREE

古澤　巌　～想いの届く日～

長年、葉加瀬太郎と活動を共にし、昨今は雅楽師 東儀秀樹との共演も話題となっている古澤 巌。才能豊かな仲間たちとともに稀代のエンターテイナー・古澤 巌がすべてを包み込む大きな愛で名曲の数々を届けます。

日　時　1月18日（金）18：30

会　場　青少年文化センターアートピアホール
ナディアパーク11階（地下鉄名城線「矢場町」下車西へ徒歩5分）

料　金　〈全指定席〉一階席4，000円　二階席3，000円
※友の会会員は1割引き（前売のみ）
※未就学児の入場はご遠慮ください

出　演　ヴァイオリン／古澤 巌　ピアノ／林 正樹
ベース／クリス・シルバースタイン　キーボード／平沼有梨

演奏予定曲　我が母の教えたまえし歌（A.ドボルザーク）　めぐり逢い（E.モリコーネ）　グーセフ（阿部篤志）
愛の讃歌（M.モノー）　想いの届く日（C.ガルデル）　他

問い合わせ　名古屋市文化振興事業団チケットガイド　TEL 052-249-9387

Information

名古屋市文化基金のご案内

名古屋の文化を創るのは、あなたです。

名古屋市文化基金（名古屋市市民文化振興事業積立基金）は、市民生活に潤いをもたらす名古屋の文化の発展のために、昭和57年に設置されました。この基金は、皆様からのご寄附と市の出資金を積み立て、その運用による果実（利息）で、市民の文化振興のための事業を実施することに役立てられています。
皆様からのご寄附をお待ちするとともに、今後もご支援、ご協力をお願い申し上げます。

参加体験事業
市民の皆様が参加・体験できる事業を積極的に展開しています。

鑑賞事業
伝統芸能をはじめ、優れた舞台芸術を紹介しています。

支援育成事業
市民の皆様が行う創造的な文化活動を支援しています。

情報発信事業
「なごや文化情報」などを発行し、文化情報を広く提供しています。

名古屋市文化基金は、ふるさと寄附金（納税）制度の適用対象となります。
※名古屋市民の皆様方が、名古屋市文化基金に寄附される場合も、この制度によって税額控除を受けることができます
税控除等の詳細につきましては、リーフレット又は市公式ウェブサイトをご覧ください

問い合わせ
名古屋市市民経済局文化振興室　TEL 052-972-3172
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団　TEL 052-249-9390

詳しくは、市公式ウェブサイト　トップページ
文化　基金　検索

感動を育てる種をまこう。
名古屋市文化基金

平成24年9月25日発行（毎月1回25日発行）通巻343号 編集発行／公益財団法人 名古屋市文化振興事業団　〒460－0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号　TEL（052）249-9385　FAX（052）249-9386　HP http://www.bunka758.or.jp/

デザイン・印刷／山菊印刷株式会社　　なごや文化情報は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。